

2020年度 傾斜的研究費（全学分）
社会連携支援（都連携研究支援・社会連携活動支援） 研究報告書

【研究費区分】：社会連携活動支援（出版）

【研究代表者所属】：大学教育センター

【研究代表者氏名】：伏木田 稚子

【研究代表者氏名フリガナ】：フシキダ ワカコ

【研究代表者職】：准教授

【研究分担者（所属,氏名,職）】

・非該当

【研究課題名】：ゼミナールにおける汎用的技能の習得—探究に基づく共同体的な学習環境の価値—

【研究実績の概要】

「ゼミナール教育に悩む多くの教員に有効な実践知を提案したい」との考えから、質問紙調査およびインタビュー調査により明らかになった実証的知見を1冊の図書（図1を参照）として刊行した。ゼミナールに関する体系的な先行研究が少ない中、本書では、心理学や社会学の研究方法に基づき、教育工学的な発想から効果的な活動や指導のあり方、共同体意識の重要性などの解明を試みた。

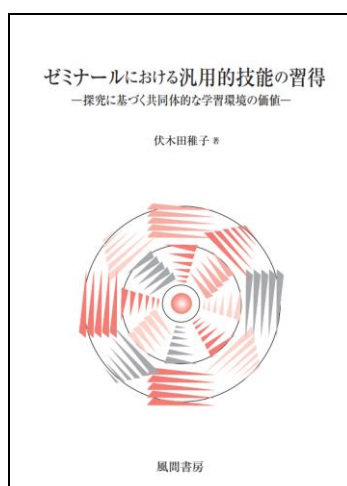


図1 本研究費の交付を受けて刊行した図書のカバー

【研究成果の都民への還元あるいは東京都への政策提言】

大学教育の質の改善・向上を目指し、多くの大学でさまざまなFD(ファカルティ・ディベロップメント)活動が行われているが、ゼミナールに関する取り組みは発展途上にある。そこで、東京都内の大学におけるゼミナール実践の知見が集約された本刊行物を活用し、ゼミナールに特化したFDを広く展開することで、専門教育の要とも言われるゼミナールがさらに充実し得ると考えている。

【東京都以外への社会への提言や活動の実績】

ゼミナール教育の重要性は東京都内の大学に限った議論ではないため、以上に述べた提言は、全国の大学教育の改善・向上に当てはまる。

【外部資金への応募状況】

- ・科学研究費助成事業 令和3年度 若手研究：不採択

【科学研究費助成事業や国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】

- ・科学研究費助成事業 基盤研究(C) (2018年4月～2022年3月) 研究分担者
- ・科学研究費助成事業 挑戦的研究萌芽 (2020年7月～2023年3月) 研究分担者
- ・科学研究費助成事業 基盤研究(B) (2021年4月～2023年3月) 研究分担者

【出版したことによる波及効果】

ゼミナールの実践はこれまで、教員の暗黙知に委ねられてきた部分が大きいですが、本刊行物が多くの大
学教員ならびに大学教育関係者の目に触れることで、「学生間の密なかかわり」「主体性を引き出す学習
活動」「多様性を認めるまなざし」に対する重要性の認識が高まると期待している。また、大学の存在意
義が強く問われる昨今、「ゼミナールにおいて仲間と共に専門知を洞察する経験は、社会人生活に必要な
汎用的技能の成長につながる」という知見を示すことは、大学教育の価値を本質的に議論する上で有効
だと考えられる。